

日々の田高（宮城スタディツアー、能登訪問の振り返り学習を行いました。）

4月6日、ホームルーム終了後、3月末に実施した「宮城スタディツアー（3/26-27）12名」と、「能登訪問（3/29-30）3名」に参加した生徒たちが集まり、振り返り学習を行いました。

能登を訪問した生徒と、宮城を訪問した生徒が同じグループになり、それぞれの訪問での活動内容と訪問で感じたことや考えたことを話し合いました。

ここでは、いくつか、生徒がグループ内で共有していた内容を紹介します。

- 何気ない「行ってきます」が最後になったと聞いて、当たり前の大切さを身に沁みて感じた。
- 昨年の生徒会の訪問の報告を聞いて、私も行きたいと思って今回参加しました。門前町は、人と人との関わりが温かく、いいところと感じました。一方、東京は、人と人との関わりが薄く感じるのでは、助け合えないのではないか。防災は助け合いが土台と思う。解決策がすぐにあるわけではないが、意識することと考えている。
- 震災について、媒体を通して見聞きするが、その方々のフィルターが入ると思う。自分が行くことで、責任のある意見を持つことができるのではないかと感じた。
- 災害が発生するとどのように行動すればよいか判断ができなくなる。事前に、どのように行動するのか具体的に決めておかなければいけないと感じた。田園調布高校やその周辺も何が危険なのか考える必要があると感じた。



現地の写真を使いながら、考えたことを話し合う生徒。